

タイトル：『汐製菓会社の新作』  
又ガーン』

---

登場人物

- ・ 汐（しお）（30代）…汐製菓会社の社長。「面白きことも無き世を面白く」を信条に、奇想天外なお菓子を次々に発案する。
- ・ 塩田（しおた）（30代）…汐の秘書。生真面目で心配性。汐の大胆な発案に驚きつつも、秘かに楽しみにしている。
- ・ 職人たち…新商品開発に関わる技術スタッフ。
- ・ 試食会参加者たち…日本国内での顧客試食会に参加する様々な年齢層や職業の顧客たち。
- ・ 海外インフルエンサー・バイヤーたち…SNSで発信する海外インフルエンサー

や、見本市で商品に興味を示す各国の  
バイヤー。

---

## シナリオ

---

### シーンニ：オープニングー 発案の瞬間

（場面ニ：汐製菓会社の社長室。汐が机に肘を  
つき、悩む顔で何かを考えている。塩田が書  
類を持って現れる）

汐：「……塩田くん！」

塩田：「は、はい！？な、なんですか、社  
長？」

汐：「新作のアイデアが閃いたんだよ！“カレ  
ー・リンゴ味ヌガー”だ！」

塩田：「か…カレーとリンゴ…？それって本当に又ガーに合いますかね…？」

汐：「合うかどうかなんて関係ない！驚きがあるかどうかだよ。“面白きことも無き世を面白く”だろ？それが我が社の信条！」

塩田：「……え、ええ、まあ、確かにそうなんですけど…。でも、カレーとリンゴなんて聞いたことないですし、ちょっと奇抜すぎませんか？」

汐：「奇抜でいいんだよ！ありきたりなお菓子なんて誰も覚えてくれない。それに、カレーのスパイシーさとリンゴの甘酸っぱさ、この二つが融合したら…もう絶対忘れられない味になる！」

塩田：「社長のその自信、時々尊敬しちゃいますけど…私には想像もできない味です…」

汐：「じゃあ早速、試作品を作ってみようじゃないか！行くぞ、塩田くん！」

塩田：「え、今からですか！？あ、ちょっと待ってください、準備も何も…！」

汐が塩田を引っ張り、二人は試作室へ向かう。

---

シーン②：試作品の開発　失敗と改善

（場面：汐製菓会社の試作室。職人たちが汐と塩田に見守られながら試作品を作り始める）

職人A：「えーと…まずカレー粉を少しずつ加えて…うわ、カレーの香りが強烈ですね。」

塩田：「（少し鼻をつまみながら）本当にこれでいいんでしょうか…？」

汐：「最高だよ！これこそが“挑戦”だ。あと、リンゴのピューレもたっぷり加えてくれ！」

試作を進める職人たちが次々に戸惑いの声を漏らしながら、味見しては微妙な表情に変わる。

職人B：「うっ…これ、カレーが効きすぎてリングが全然感じられないですね…。」

塩田：「ほ、ほんとですね。口に入れた瞬間、カレー一色に…」

汐：「よし！じゃあ、リングの量を倍にしよう！」

職人たちが指示通りリングを増やし再挑戦するが、今度はリングが強くなり過ぎ、またもやバランスが崩れる。

職人A：「今度は、リングが勝ちすぎてますね…どこにカレーが行ったのか…」

汐：「(少し悩んで)バランス、バランスか…」  
こが職人技の見せどころだろう！塩田くん、

カレーとリンゴの愛のバランス、君ならどうする？」

塩田：「ええっ、私ですか！？あ、えっと…

（考え込む）…あ！そうだ、どちらかが強すぎるとき、塩を少し入れると甘みが引き立つて聞いたことがあります！」

汐：「なるほど！じゃあ、少し塩を加えてみよう！」

少しずつ改善を加え、ようやく理想に近い味にたどり着く。職人たちと塩田がようやく納得し、汐も満足げにうなずく。

---

### シーン③：国内向け試食会

（場面：汐製菓の新商品発表会場。来場者たちが新しいカレー・リンゴ味ヌガーを試食し始める）

年齢層の異なる日本人顧客が登場し、それぞれ異なるリアクションを見せる。

若い女性：「うわあ、カレーのスパイスがふわつと来て、次にリンゴの甘さが…なんか新しい！」

小学生の男の子：「…これ、カレーなの！？

甘いのにカレー味って変な感じ！」

サラリーマン：「（驚きつつ）これは…お菓子なのか？いや、案外イケるな…」

年配の女性：「最初は変わってるって思ったけど、クセになるわね…」

塩田はお客様の反応に「善い變しながら、汐が会場を盛り上げる。

汐：「皆さん、新しいお菓子に“えっ”と驚く。この瞬間こそが、私たちの求めていたものです！」

#### シーン4: SNSでのバズー海外の反応

(場面: SNSが賑わい、海外でもカレー・リン

ゴ味ヌガーが話題に)

アメリカ人インフルエンサー:「Hey guys, so

today I, m trying this new candy from

Japan, flavored with... curry and apple!?

Let, s see how it tastes. (一口食べて驚く

た顔をする) Whoa! This is so weird... but

kinda addictive!」

フランス人ブロガー:「カレーとリンゴを合わせ

るなんて、日本のお菓子、やっぱりすごい

わ。」

SNSでは「リンゴの味、クセになる...」「カレーと

リンゴが絶妙」買ってみたけど、これ、日本

らしい挑戦的な味だ」などのコメントが続々と

投稿される。塩田もSNSを確認して安堵す

る。

塩田：「（ホツとしながら）社長、どうやら海外でも好評みたいです…」

汐：「よし、次はもっと広めるぞ！ 国際見本市に乗り込む！」

---

シーン⑤：国際菓子見本市での成功

（場面：見本市の会場。世界中のバイヤーたちがカレー・リンゴ味ヌガーを試食し、次々に反応する）

イギリス人バイヤー：「Very unique... curry  
first, then there's a gentle sweetness  
from the apple. This could really catch  
on back home.」

フランス人バイヤー：「私たちのスイーツ文化と違うけど、なんだか面白い…うん、これは新しいわー。」

インド人バイヤー：「これはうちの国でも人気が出るかもしれない。カレーの風味が懐かしい、甘さもほどよくて面白い！」

次々とバイヤーたちが興味を示し、汐と塩田の自信が深まる。

汐：「塩田くん、これで日本のお菓子が世界に羽ばたくぞ！」

塩田：「（笑顔で）また社長に振り回されるかと思いましたが、楽しかったです！」

---

## エンディング

見本市のブースで、未来に向かって自信を持って次の挑戦を語り合う汐と塩田。エンディング音楽が流れ、幕が下りる。

## シーン1との尺割り

1. オープニング | 発案の瞬間 (約10分)

- 汐のアイデアが閃く瞬間と、塩田がその無茶さに戸惑うシーン。
- セリフを多めにして、汐のアイデアの奇抜さと塩田のリアクションにたつぷりと時間をかけ、二人のキャラクター性をしっかりと見せる。

2. 試作品の開発 | 失敗と改善 (約15分)

- カレー・リング味のヌガーを試作する過程での失敗と改善。職人たちや塩田、汐との会話を増やして、味のバランスや材料調整の試行錯誤をコミカルに描く。
- 特に失敗するたびにリアクションする職人たちや塩田の反応を多めに挟み、視聴者に笑いを誘う。

3. 国内向け試食会 (約10分)

- 日本国内で試食会が開かれ、一般の人々がカレー・リンゴ味又ガーに驚くシーン。
- 年齢層や立場が異なる参加者が次々に現れ、各キャラクターのリアクションをテンプよく交互に挟みながら、それぞれの意見が違ふことでコミカルな場面を作る。

#### 4. SNSでのバズー海外の反応（約10分）

- SNSで話題になり、様々な国のインフルエンサーがレビューするシーン。
- 世界中からコメントが続出し、リアクションや会話のテンプを良くして、カレー・リンゴ味又ガーが国境を越えて広まる様子を軽快に描く。

#### 5. 国際菓子見本市での成功（約15分）

- 国際見本市でのバイヤーたちの試食シーンが中心。各国のバイヤーがそれぞれ異なる視点からカレー・リンゴ味を評価し、取引交渉が進む。

- バイヤーたちの反応を丁寧に描き、どの国の文化にも少しずつ刺さっていく様子を、テンポを崩さずにゆっくりと展開。

#### 9. エンディング（約10分）

- 見本市が終わった後、汐と塩田が次のアイデアについて語り合い、未来の挑戦に向かっていくシーン。

- 二人の会話にしっかりと時間をかけ、次の可能性を感じさせながら作品を締めくくる。